

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 優秀賞

「 きろくてき大雨 」

鹿児島県 曾於市立財部小学校 2年 <sup>かみあつまり</sup>上集 <sup>あると</sup>歩翔

「ママ、パパがじゅうきにのってたすけに行ったよ。」

テレビのニュースでトンネルにじゅうきにのってたすけに行く人を見ました。ぼくは、その人を自分のパパだと思ったのでした。

ぼくのパパは、じゅうきにのってどうろをつくったり、ダムをつくったりするしごとをしています。どしゃくずれがおきないように山をけずったり、川を広げたりします。大雨でどしゃくずれがおきたときは、よ中でもたおれた木や土をてっきょしに行きます。休みの日には、パパにげんばにつれて行ってもらい、いろんなことを教えてもらいます。ぼくはじゅうきがすきななので、いつもま近で見せてもらいます。

8月5日、ふくいけんやしがけんできろくてきな大雨がふりました。川の水がはんらんして町がどろ水であふれているのをニュースで見ました。そして、どしゃくずれがおきてトンネルにどしゃがながれこんで、車がうごけなくなっているのも見ました。ぼくはこわくてびっくりしました。もし、トンネルにとりのこされたらどうしよう、いえの中から出られなくなったらどうしようと思いました。

そんなとき、またニュースでじゅうきがトンネルの外でどしゃをとりのぞくさぎょうをすると言っていました。ぼくはそれを見て、ぼくのパパがたすけに行ったのだと思いました。

「ママ、パパがじゅうきにのってたすけに行ったよ。」

とママに教えました。ママは、

「そこはあっくんがすんでいるかごしまけんではないから、じゅうきにのっている人はパパじゃないよ。だけど、パパと同じしごとをしている人がたすけに行ったんだね。」

と教えてくれました。また、さぎょうをしているじゅうきのすぐ近くでもにごったどろ水がすごいいきおいでながれていると知りました。こわい思いをしながら、車をすくうためにどしゃをとりのぞくさぎょうをしている人がいるのだと思うと、「かつこいいな。ぼくも人びとのいのちをまもるパパみたいなおしごとをしたいな。」と思いました。

てっきよさぎょうがおわり、とりのこされていた車もトンネルから出ることができたとニュースで知り、あんしんしました。

ぼくの町でもおこるかもしれないどしゃさいがい。ぼくのいえも川や山の近くにあるので、いつ川がはんらんしたり、どしゃくずれがおきたりするのかわかりません。でも、パパやパパと同じしごとをしている人たちが、町の人びとのあんぜんをまもるために日ごろからたいさくをしたり、どしゃくずれのとくによ中でも大雨の中でさぎょうをしたりしていて、本とうにかつこいいし、たのもしいなと思います。

ぼくもパパみたいに人びとからたよりにされる大人になりたいと思います。